

<経済用語解説>

ちょっと教えて！ 現代のキーワード

ジェネリック医薬品

普及進めば医療費抑制効果も

新薬（先発医薬品）の特許が切れ、独占的な販売期間が終わった後に、ほかの製薬会社が同じ成分で製造・販売する医薬品のことです（後発医薬品ともいいます）。一般的な薬品名（化学物質名）で処方されることが多いので、ジェネリック（「一般的な」の意）と呼ばれるようになりました。

新薬に比べて研究開発にかかるコストが抑えられることから、価格が安いことが大きな特徴です。

欧米主要国では、ジェネリック医薬品が数量ベースで市場の約 5 割に達しているのに対し、日本ではわずか 17%程度に過ぎません。

ジェネリック医薬品の普及については、その品質や安全面での課題はあるものの、増加を続ける医療費を抑制する効果が期待できることから、厚生労働省も最近ではジェネリック医薬品市場の形成に積極姿勢を示しています。2006年4月には処方箋の様式を変更（「後発薬への変更可」の表示欄を新設）して、患者がジェネリックを選びやすいようにしました。また、2007年6月発表された「骨太方針 2007」にも後発薬の普及加速が盛り込まれました。医療保険給付でカバーする金額を後発薬を基準に設定し、あえて割高な先発医薬品を選んだ場合は患者の自己負担が増える仕組みにするなどの医療保険見直し案が現在政府で検討されています。

主要国の医薬品市場におけるジェネリック医薬品のシェア

(単位：%)

国	数量ベース	金額ベース
チェコ	67.4	40.0
ポーランド	65.6	41.0
デンマーク	57.0	15.0
英国	52.0	18.0
米国	51.0	8.0
ドイツ	50.0	23.0
ハンガリー	41.7	26.0
フィンランド	41.0	28.0
オランダ	37.0	14.0
ノルウェー	28.2	7.2
日本	16.8	5.2

注：・第7回世界ジェネリック医薬品協会（IGPA）プラ八年次総会（2004年）資料、医薬工業協議会資料などからジェトロ作成。
・日本のみ2004年、その他は2002年。

出所：ジェトロ